

人の絆

伊勢原中学校

三年

鯨坂

春月

私たちは今も、人生の「ヤ」を歩んでい

ます。時には、それはありふれたものだと感じ

ることさえあります。しかし、その「日常」

が突然、奪われてしまったら、私たちはどう

なってしまうのでしょうか。

私たちから「日常」を奪うものの、そのひと

つに自然災害があります。自然災害とひとく

ちに言っても様々ですが、近年は地球温暖化

の影響もあり、集中豪雨や土砂災害、台風

などが多く見受けられます。

その中でも特に豪雨による被害をニッ

でよく目にします。河川や水没した街を見る

と、唖然とした言葉を失います。そこには何も

も変わり果てた街の姿が残ることでしょう。

しかしそこには、人々の営みを取り戻すた

に、強い勇敢な人々がいることも事実です。

大きな災害があつた時にいち早く現場に駆

けっける人々のこころ、災害ボランティア
と呼びます。彼らは被災地のがれきの撤去や
清掃、泥出しなど、力仕事ですが、炊き出し
し、被災者の言葉に身を傾ける傾聴活動、ま
してや被災者の心のケアまで行うそうです。
他にも、現地へ行かなくても被災地のために
募金をするこゝなど、立派な支援と云える
す。
さて、その災害ボランティアですが、下は
現地へ行つて復興の支援をしている団体と
いうように思えるかもしれません。私もど
ちよりはその思つていました。
しかしその中には、私の想像を超える素直な
しい人々の「絆」がありました。
今回私はインターナットを通じて、実際に
被災した被災地へボランティアを受け入れる
創しとボランティアを行つた人たちの声を調
べてみました。
初めは互いに不安を隠しきれなかつた様で
すが、ボランティア活動を進めるうちに、互

いに感謝の気持ちを持つようになっていま
した。

ここで私が驚いたことがあります。それは

ボランティアアを受け入れる側だけでなく、

ボランティアアを行う側も、様々な気付きや発

見があるという事です。実際にボランティア

アに参加することによって、改めて人の絆や

優しさに気付いたり、被災地の人々の笑顔を

見ることによって、他の人の役に立ったり、達成感

を得たり、いろいろなと「学ぶ」ことがありま

した。被災地の方も、ボランティアアの姿に励

まれたり、人の暖かけを実感することができ

たといます。

このようにボランティアは、互いに助けあ

い、助けられ、感謝しあう、とても素晴らし

い活動なんだな、と私自身感銘を受けました

。また同時に、人とつながる大切さや暖かけ

を改めて感じました。

さて、今回は災害ボランティアを例に挙げ

ましたが、ボランティアはこれに限った訳で

はあります。災害ボランティアに年齢的な制限はありませんが、現地に行動せんが、私たちは行動範囲が狭く、現地に行動して精力的に活動するというのの中、厳しいのかも知れません。今、ここで私たちができることはなんでしょう。その中の一つに募金があります。実際には募金箱のある場所へ行けなくとも、インターネットを通じて募金することもできます。また、ボランティアに求められるものや道具、諸注意などを知覚として蓄えておくことも大切です。実際にはボランティアを行って体調を崩してしまったりしてはがえって迷惑を掛けてしましますね。そして、ボランティアというのはい見返りを求めずに行うもの。人の役に立つこと。への嬉しさや、人との絆、感謝の心、そしてお互いに助けあうことを忘れずに、私も積極的に色々なボランティアに参加して、人々や社会に貢献できる人になつていきたいです。